

令和5年度「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：22008
学校名：茨戸小学校

改訂のポイント

- 自ら学ぶ方法に加えて、人と学び合う方法の習得にも重点を置きました。
- にーごープロジェクトの活用により、基礎基本の定着を図ります。

| 項目名 | 項目内容 | 項目内容の具体 | | |
|-----------------|--------------------|---|---|--|
| 目標 | 「学ぶ力」の育成に係る目指す子ども像 | 自分と友達で、意欲的に学び続ける子 | | |
| 「学ぶ力」に関する成果や課題 | 主体的に学習に取り組む態度 | 【昨年度の具体的な取組】 ○ICTの活用や家庭学習ノートの推進を進め、自分で問題意識をもって学習できる力を育成する。 ○子どもたちが多面的・多角的に考察できるようにするため、子どもたちの発表の仕方について、具体的に例示し、子どもたち同士で、自ら学び続ける力を育てる。 | 【成果】 ⇒札幌市共通指標に基づくアンケートにおいて、「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている。」の項目で84%、「自分なりの疑問や課題をもって学習に取り組もうとしている。」の項目で、83.3%の子が肯定的に答え、ICTの活用や家庭学習ノートの推進が少しずつ成果を上げている。 ⇒ICT活用に関するアンケートで、「端末を使った交流で気付いたことを自分の学習に取り入れようとしている。」と答えた子が昨年よりも15.4%割合が増えた。(78.6%)端末を使った交流活動を行うことにより、子ども同士で、自ら学び続ける力が伸びたと考える。 | 【課題】 ◇札幌市共通指標に基づくアンケートにおいて、「自分の意見を進んで発言しようとしている。」と肯定的に答えた子が69.4%と低めであった。多面的、多角的に考察できるために、より発表への意欲付けを図る必要があると考える。 ◇全国学習状況調査において、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」の項目で、肯定的に答えた子が65%と低めだった。友達と自分の意見の違いについて、主体的に考察できる力を高める必要があると考える。 |
| | 思考力・判断力・表現力等 | 【昨年度の具体的な取組】 ○ICTの活用により、発表が苦手な子でも他者の意見との交流をやすくし、表現力の育成に努める | 【成果】 ⇒ICT活用に関するアンケートで「端末を使う活動で、自分の意見を進んで伝えようとしている。」の項目で肯定的に答えた子が昨年よりも13.5%増え(71.4%)、進んで表現する子が増え、表現力育成につながったと考える。 | 【課題】 ◇数研式標準学力テストにおいて、各学年とも「思考力・判断力・表現力」の正答率が「知識・理解」の項目より低い傾向にあった。習得した知識を使う活動を増やす必要があると考える。 |
| | 基礎的・基本的な知識及び技能 | 【昨年度の具体的な取組】 ○チームティーチング活用による個別指導の充実 ○学習ルール、約束事の徹底 | 【成果】 ⇒札幌市共通指標に基づくアンケートにおいて、「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。」の項目で、88.2%の子が肯定的に答え、質問しやすい環境が整えられていると考え、知識や技能の習得に役立っている。 | 【課題】 ◇NRT学力検査から、昨年度と同様に、全国水準と比べると国語、算数ともに低い傾向が見られる。 |
| 今年度の具体的な改善策(取組) | 取組の最重点 | 【取組の共有】 子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動の充実 | | |
| | 具体的な改善策(取組) | ○チームティーチング、算数ににーごープロジェクト活用による活用による少人数、個別指導の充実から、知識の定着を目指す。 ○ICT活用も含めた手段により、自分の考えを発表する機会の充実を図り、知識を使いこなす力の習得を目指す。 ○友達同士で、学んだことを対話的に振り返り、意味理解を伴った知識の習得を目指す場の充実 | | |
| 検証の方法 | 各種調査や子どもの自己評価指標の活用 | ○各教科等の評価規準に基づく学習状況評価結果の活用(日常のテストやノート、観察等) ○全国学力・学習状況調査や学校独自の調査結果等を活用 ○札幌市全体の共通指標(子どもの自己評価)、ICTの活用に係るアンケートの具体的な活用方法 | | |